

**牛根でしかできないこと、
牛根だからできることを
みんなで考えよう**

～ 牛根づくり計画 ～



初 版

平成24年10月
牛根地区公民館

牛根でしかできないこと、牛根だからできることを
みんなで考えよう
～ 牛根づくり計画 ～

も く じ

1	この計画について	1
2	わたしたちはすすめます	2
3	牛根地区の ^{いまむかし} 今昔	
(1)	牛根地区の歴史	3
(2)	そして、牛根地区のいま	4
(3)	牛根地区の人口の推移	5
4	「牛根地区はこうありたい（行動計画）」 「こうありたい」のため、「だれが」、「いつ」、「何をする？」	6
5	計画を実行するために	16
6	振り返り	17
○	参考資料	
〈資料1〉	第4次垂水市総合計画抜すい	18
〈資料2〉	策定にあたって	
(1)	策定経過	19
(2)	アンケートの実施と結果	20
(3)	視察報告（大馬越地区コミュニティ協議会）	35
〈資料3〉	策定委員会について	
(1)	策定委員会規程	42
(2)	策定委員名簿	43
〈資料4〉	牛根地区関連記事	44
○	あとがき	46

1 この計画について

・この「牛根づくり計画」は、牛根地区をよりよい地区にしていくために、牛根地区住民の手で作られた計画です。

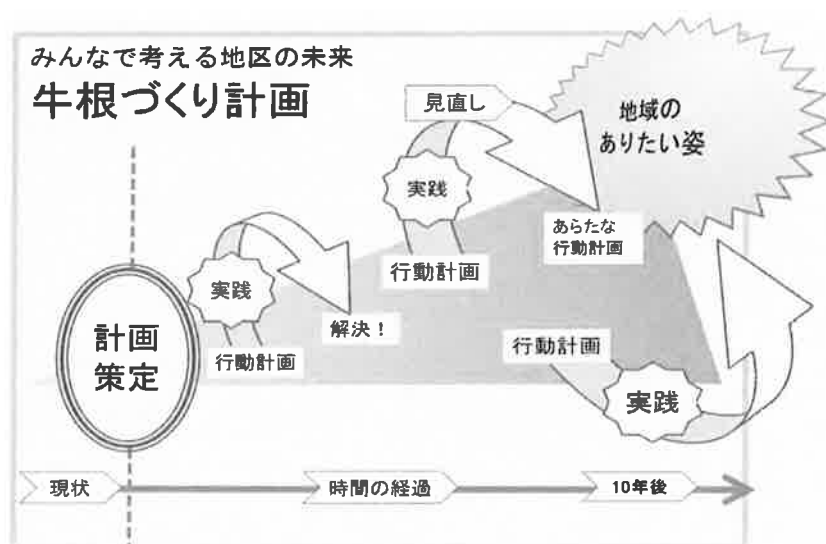
・「牛根づくり計画」策定委員会では、牛根地区の全世帯を対象に行ったアンケートで集められた意見（P20～34）をもとに話し合いを重ね、9つの「牛根地区はこうありたい」に整理しました。

・9つの「こうありたい」を実現し、よりよい牛根地区をつくっていくために、「だれが」「いつ」「何をする」かを決めた、行動計画をつくりました。（P6～15）

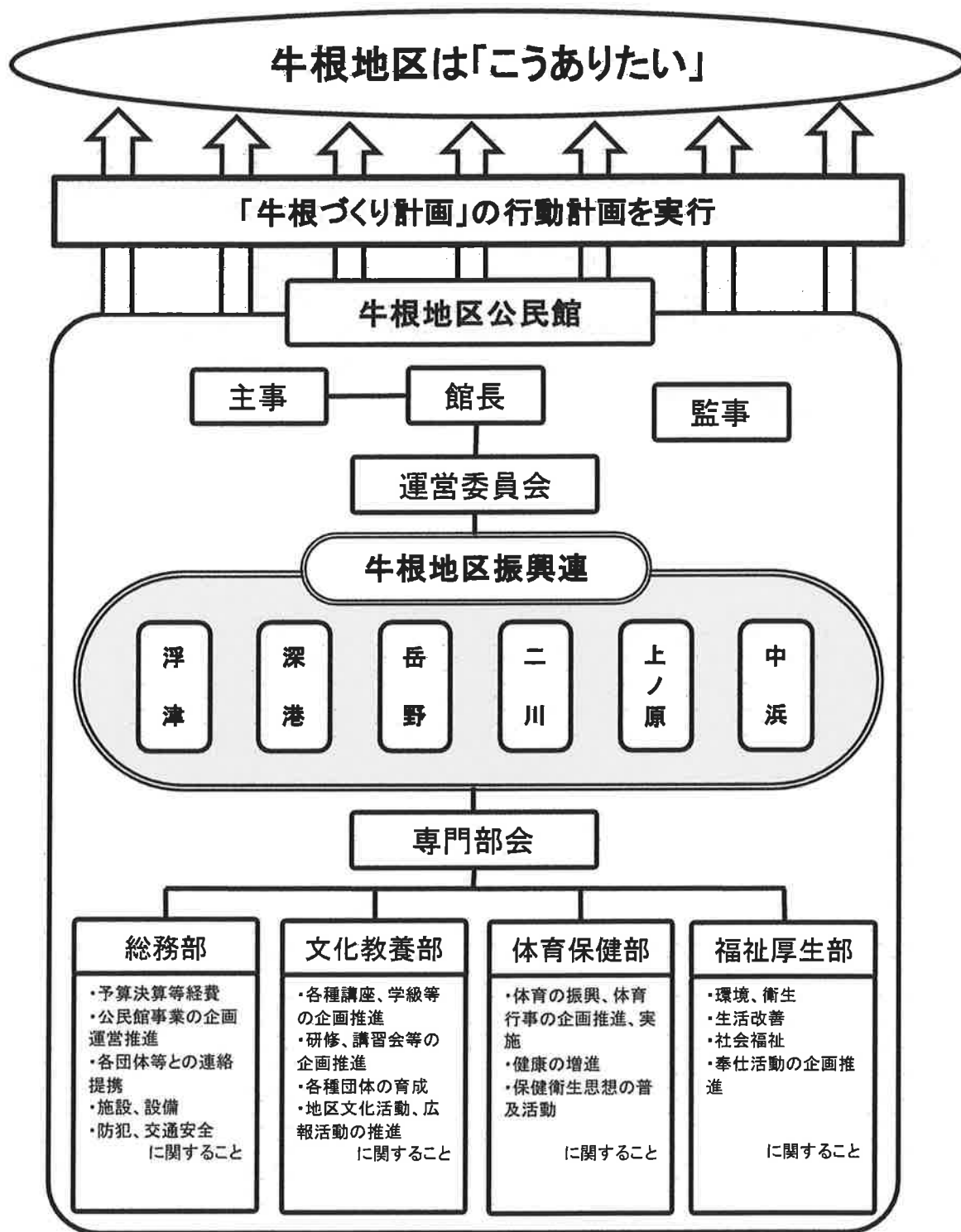
・この計画は、平成24年度から平成33年度までの10年間の計画です。期間中も話し合いを行い、進捗状況の確認や見直しを行います。（下図、P17）

・わたしたち牛根地区住民自らの手で、この計画を実行します。まずは一つのことに取り組み、徐々に大きな取り組みにしていくことで、よりよい牛根地区をつくっていきます。

・この計画は、第4次垂水市総合計画の基本構想にもとづく「地域振興計画」の牛根地区版（P18）です。わたしたちは、行政とも力を合わせ、協働で計画を実行していきます。



2 わたしたちはすすめます



- ・「牛根づくり計画」の行動計画を実行し、牛根地区の「こうありたい」姿を目指します。
- ・行動計画は牛根地区公民館が中心となって実施し、牛根地区の6振興会が協力して計画を推進します。
- ・行動計画の実施にあたっては、牛根地区公民館の各部会が中心となって企画運営を行います。

3 牛根地区の今昔 いまむかし

(1) 牛根地区の歴史

「牛根」の語源には諸説ありますが、鹿児島県考古学会の山崎五十磨氏は、アイヌ語で森林樹木の多く繁茂した山深い所という意味のある「ウシニ」が「ウシネ」に転じたものとしています。また、日本食糧史の著者、最上宏氏は、アイヌ語で「ウシ」は湾、「ネ」は所という意味を持ち、錦江湾に面した所という意味であるとしています。

この語源からも分かるとおり、牛根地区は深い山々と錦江湾の間に位置する地区であり、旧藩時代より薪炭を鹿児島や加治木等へ生産輸送して栄えた歴史を持ちます。

また、明治 34 年には百引街道線の道路が竣工され、大隅中部との産業主要路線として、百引—二川—鹿児島の連絡が完成されました。これにより二川港では帆船と馬車の取次が行われることとなり、大繁栄を来たしました。

明治 22 年からは町村制の実施により、当時の二川村は麓村、境村と共に廃され、牛根村が誕生します。牛根村の人口が最も多かったのは昭和 20 年代とされ、現在の牛根地区にあたる地域の世帯数及び人口は、450 世帯 2,245 人との記録が残っています。(下表)

そして昭和 30 年、当時の垂水町、新城村と合併し、昭和 33 年 10 月 1 日に市制を施行、現在に至っています。

集落名	昭和 27 年 7 月 1 日				平成 24 年 9 月 30 日			
	世帯数	総人口	男性人口	女性人口	世帯数	総人口	男性人口	女性人口
中 浜	57	356	195	161	61	133	67	66
上ノ原	52	245	132	113	42	86	35	51
岳 野	49	234	125	109	18	34	15	19
二 川	119	546	262	284	99	227	108	119
深 港	65	347	179	168	41	79	39	40
浮 津	108	517	252	265	60	116	52	64
計	450	2,245	1,145	1,100	321	675	316	359

▲集落別人口の比較

(2) そして、牛根地区のいま

現在の牛根地区住民は、代々受け継がれてきた豊かな自然の中で生活しています。その生活環境は非常に多彩で、深い山々や豊かな森がある一方、開かれた海や数多くの川、住宅の集まる地域等、同じ牛根地区の中でもそれぞれの集落ごとに多様な特色を持っています。

そして、このような各地域の特色は、そこに住む人々の暮らしにも色濃く影響しています。各地域にそれぞれの文化、仕事、遊びなどがあり、そのためか、牛根地区は市内でも特に各振興会の絆が強いという特徴があります。



▲牛根中学校閉校記念式典

また、現在の牛根地区を語る上で最も重要な出来事として、牛根中学校の閉校が挙げられます。平成22年3月に最後の卒業式が行われ（卒業生総数5,865名）、創立以来63年の歴史に幕を閉じ、牛根中学校を含む市内4中学校が統合されて垂水中央中学校が新設されました。

このことが示すとおり、牛根地区にも他の地区同様に少子高齢化の波が押し寄せています。現在牛根小学校に通う児童は22名（平成24年度教育行政要覧より）となっており、児童数はピーク時の361人（昭和35年度）の10分の1以下まで減少しています。

また、先述のとおり牛根地区は各振興会が強い絆で結ばれており、これまでは各振興会で棒踊り等の伝統芸能や、地域の行事を実施していました。しかし、地区内の人口、特に子どもの数が少なくなってしまうことで、それらを継続していくことが難しくなっています。



▲二川棒踊り



▲牛根小学校と校区の合同運動会

今後も人口の減少、少子高齢化は、牛根地区だけでなく全国的にすすむことが考えられます。そのような時だからこそ、6つの各振興会がより協力し合い、牛根地区が一つにまとまることが重要です。この「牛根づくり計画」の中にも、牛根地区全体で取り組む計画やアイデアが盛り込まれています。

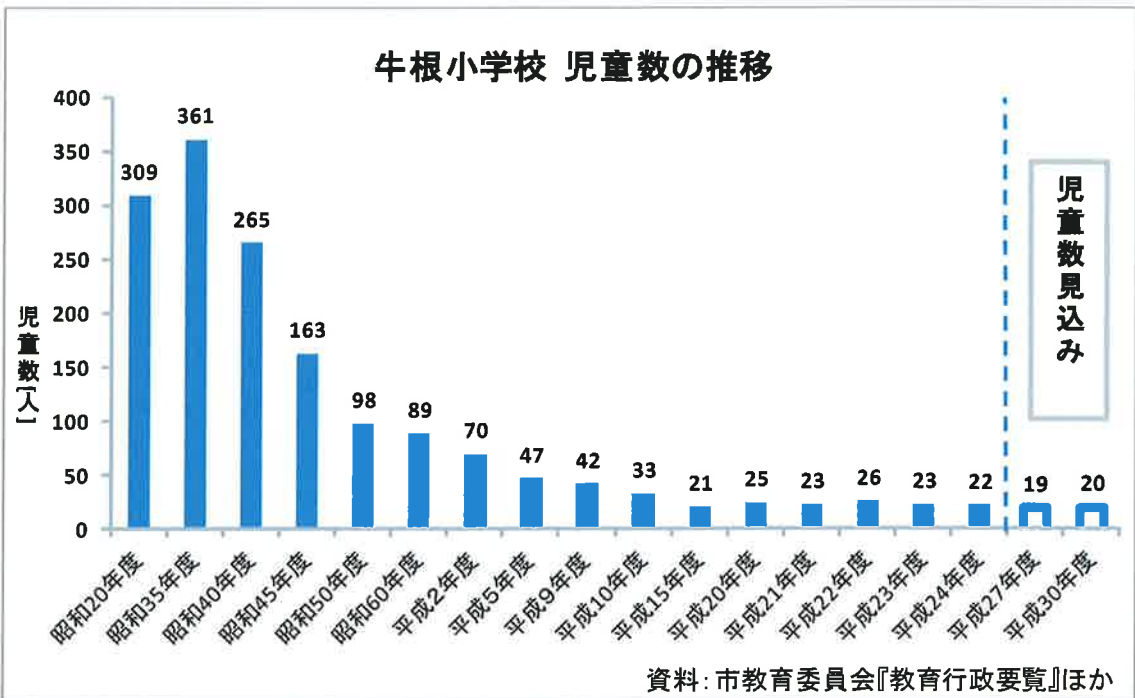
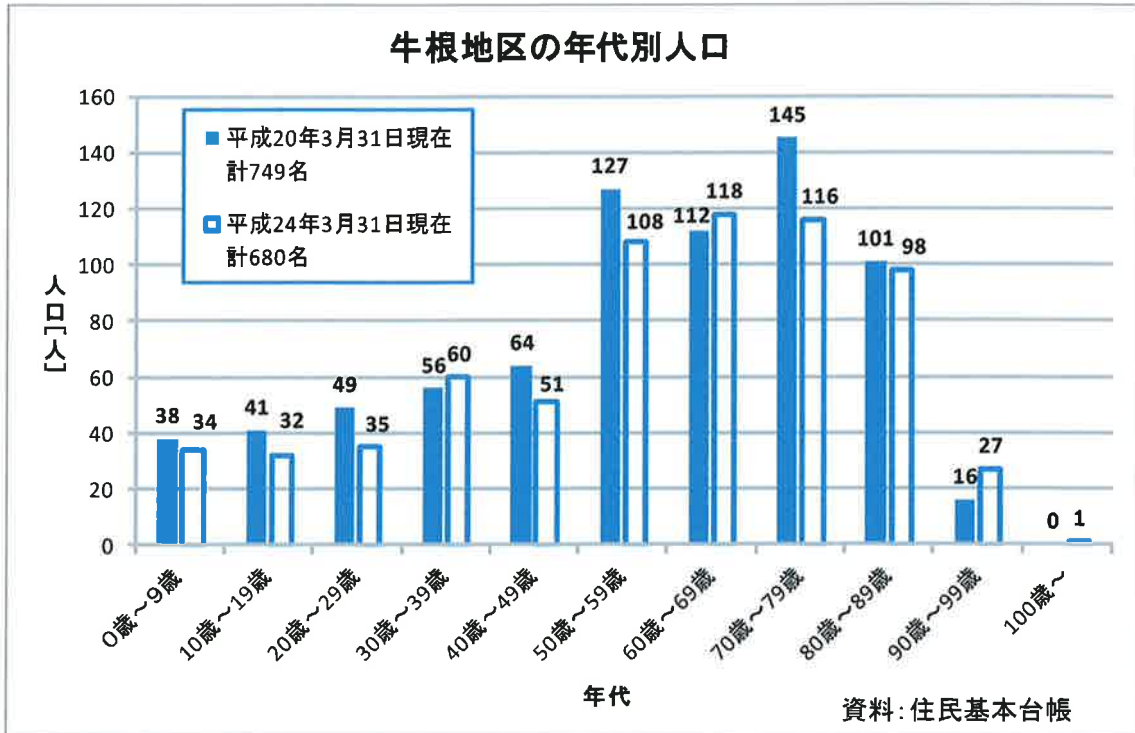
【参考資料】

『垂水市史（上・下）』

『牛根中学校閉校記念誌』

『牛根小学校百周年記念誌』

(3) 牛根地区の人口の推移




(上表)牛根地区の現在の人口を5年度前と比較すると、総人口は69名減少しています。その中でも59歳以下の年代では30歳代を除いて全ての年代で人口の減少が見られます。

(下表)牛根小学校の児童数の推移を見てみると、昭和40年度以降減少を続け、近年は30名足らずの児童数となっています。現在牛根地区に居住する未就学児数をもとに算出した平成25年度以降の児童数見込みでは、今後20名前後の児童数でほぼ横ばいに推移することが予測されています。

4 牛根地区はこうありたい（行動計画）

～牛根でしかできないこと、牛根だからできることをみんなで考えよう～

キーワード	「こうありたい」	だれが		いつ、何を？			市役所関係課長等の見解
		・地域 ・団体名 ・市 ・県、国		前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
交 流	<p>イベント等を通して交流の場を作りたい</p>  <p>▲岳野交通安全ニュースポーツ大会</p>	牛根地区公民館		<p>行事の連絡等が行きわたるよう、公民館組織の体制、連絡体制を改善する</p>			<p>※1 防災無線における情報発信は、市の行事を中心に発信しています。（苦情等もあり、少なめになっています） ホームページにおいては、依頼（情報）を受けて対応しています。FMに関しては、どのような発信ができるか要望をいただき、FMにお願いしてみます。 また、広報誌の活用も検討できます。（総務課）</p> <p>※2 市公用バスの手配については、運輸局の自家用バスの適正使用の指導（道路運送法に抵触する行為等の改善）が厳しくなされています。 また、行財政改革の観点から今後新たなバスは購入せず、専任の職員配置も厳しくなります。これらの状況から、当分の間は法令遵守を条件に市公用バスの手配は可能ですが、数年後は厳しくなることが予想されます。（財政課）</p> <p>現在、社会教育関連事業については、各団体に事業内容を確認し、主管課である財政課と協議して、法令の範囲内での使用と認められる場合は、社会教育課でバスの申請を行っています。</p> <p>今後も、市公用バスが運行される間、同様に申請団体や財政課と協議し、申請を行う等の協力をしていきます。（社会教育課）</p>
				<p>委員以外にも声をかけ、関わる人を増やす</p> <p>地域の味を持ち寄ってお茶会を開き、みんなが集まれる場所を作る</p> <p>地区公民館が中心になり、現在校区で行っているイベントを充実させる (4月) お花見 (10月) 市民体育祭 (8月) 岳野グラウンドゴルフ (12月) 餅つき (9月) 校区運動会</p> <p>新しいイベント、取り組みをはじめ ・夏祭り（ゆうきのなぎさ） ・ストレッチ、手軽体操 ・十五夜の復活 ・餅やり、魚のさばき体験 ・料理教室 ・びわスイーツ開発 ・お金のかからない遊びづくり ・民泊受け入れ ・地域のマップづくり ・出合いのできる食事会 ・ふるさと宅急便 ・イベント時等に屋台を出す ・ハチミツ作り ・農業大学校への研修 ・青空屋の市 ・校区キャンプ ・スタンプラリー</p> <p>地元歴史研究家の話をもとにして牛根の歴史をPRし、交流人口を増やす</p>			
		市	総務課	<p>行事等の情報をいただき、各市広報誌等による広報を検討する ※1</p>			
			財政課 社会教育課	<p>当面の間、法律に従って市公用バスの手配に協力する ※2</p>			

～牛根でしかできないこと、牛根だからできることをみんなで考えよう～

キーワード	「こうありたい」	だれが		いつ、何をする？			市役所関係課長等の見解		
		・地域 ・団体名 ・市 ・県、国		前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)			
中学校跡地	<p>中学校跡地を有効活用したい</p>  <p>▲現在の牛根中学校跡地</p>	牛根地区公民館		中学校跡地の利用について、境・松ヶ崎地区、市と協議する			<p>※3 地域住民の意向を大事にしながら、地域に、市民に役立てるという方向性で進めて行く必要があります。 今後も、全庁体制で協議を進め、併せて地域と一体となって取り組んでいかなければなりません。(教育総務課)</p> <p>※4 雇用効果を大きく期待できる製造業などの誘致は、現状の社会情勢においては厳しい状況にあり、本市の産業構造に馴染むような企業誘致の推進を主体に、継続的な取組を進めます。(企画課)</p> <p>※5 現在、住宅政策は公営住宅における住環境の整備や管理の方針として、市営住宅に対するニーズや財政状況を考慮しながら既存の公営住宅を効率的に活用するため、公営住宅の長寿命化計画を本年度策定する予定です。 現在牛根地区における市営住宅への入居待機は1世帯です。(土木課)</p> <p>※6 公民館を対象とした、健康体操教室等の開催や、地域づくり活動への支援を行います。(保健福祉課)</p> <p>※7 牛根麓に道の駅があることから、牛根中跡地への物産館等建設は考えていません。 しかし、地区住民が独自で農水産物を販売される計画があれば、物産館等のPRや販売に対する助言等、出来る範囲で支援を行います。(商工観光課)</p>		
				校舎、運動場、プール、体育館を、イベント会場や集会場として地区住民が利用する					
				校区で中学校跡地の美化活動を行う					
				中学校跡地を利用してビワの生産、加工、販売をする					
				市		教育総務課		学校跡地の活用策の検討を継続して行う ※3	
		企画課	企業誘致など継続的に活用策の検討を進めて行く ※4						
		土木課	公営住宅の長寿命化計画を踏まえ、住宅としての利用について検討する ※5						
		保健福祉課	健康福祉を目的として利用する事業について支援する ※6						
		商工観光課	観光施設としての利用を支援する ※7						

～牛根でしかできないこと、牛根だからできることをみんなで考えよう～

キーワード	「こうりたい」	だれが		いつ、何を？			市役所関係課長等の見解	
		・地域 ・団体名 ・市 ・県、国		前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)		
人口	<p>地元で働きたい 若者が住んでほしい 空き家を有効活用したい</p> <p>※市は、売買または賃貸取引の仲介は致しません。 ▲空き家バンク制度のしくみ</p>	地域			<p>空き家を集会場として利用する</p>		<p>※8 空き家バンク制度の登録物件が減少傾向にあり、空き家を活用し易くするために、家財の処理費用に対する助成制度の創設を検討するなど考えています。 地域においても、これらのことに関する情報の提供をお願いします。(企画課)</p> <p>※9 牛根麓地区のグローバル・オーシャン・ワークス㈱の進出は若い人の雇用にも繋がっており、今後もこのような事例が増やせるよう努力していきます。 なお、企業誘致にあたっては、企業が進出先の選定をするにあたり、地元の意見にも重きをおく傾向にもあるので、ご理解をいただきたいと思います。(企画課)</p> <p>※10 支援が必要な児童生徒が豊かな学校生活を送ることができるように、特別支援教育支援員を配置したり、児童が豊かな体験を積むことができるように、複式学級のある5小学校で集団宿泊学習(セカンドスクール)の実施を行います。(学校教育課)</p> <p>現在、経済的支援として乳幼児等医療費助成事業を実施しています。また、障害児の福祉サービス利用者負担助成事業を実施しています。(保健福祉課)</p> <p>※11 具体的な要望もそれぞれの意向があると考えられるので、それぞれの状況に応じ補助事業等の情報提供等の就業支援を行います。(農林課)</p> <p>現在、漁協と連携して、就業を支援できる体制はとっています。(水産課)</p> <p>※12 現在、住宅政策は公営住宅における住環境の整備や管理の方針として、市営住宅に対するニーズや財政状況を考慮しながら既存の公営住宅を効率的に活用するため、公営住宅の長寿命化計画を本年度策定する予定です。 現在牛根地区における市営住宅への入居待機は1世帯です。(土木課)</p>	
		市	企画課		<p>空き家バンク制度の推進など定住に関する取組の推進に努める ※8</p>			<p>企業誘致を継続して推進する ※9</p>
			学校教育課 保健福祉課				<p>教育、子どもに関する支援を継続する ※10</p>	
			農林課 水産課				<p>I・Uターン者の具体的な要望に応じた就業支援を行う ※11</p>	
市・県	土木課				<p>公営住宅の長寿命化計画を踏まえ、公営住宅の増設を検討する ※12</p>			

～牛根でしかできないこと、牛根だからできることをみんなで考えよう～

キーワード	「こうありたい」	だれが		いつ、何を？			市役所関係課長等の見解
		・地域 ・団体名 ・市 ・県、国		前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
環境	<p>農作物の獣害を減らしたい 地区の環境を守りたい 社会基盤を整備したい 福祉を充実させたい</p>  <p>▲海岸清掃(錦江湾クリーンアップ作戦)</p>	牛根地区公民館	中学校跡地を利用できるよう、草払いなどの維持管理をする			<p>※13 具体的な要望の、それぞれの状況に応じた補助事業等の情報を提供します。(農林課)</p> <p>※14 信号機設置要望書の作成につきましては、素案作成から提出までご協力いたします。ただ信号機設置に関しては、地元(振興会、地区)から警察へ要望書を提出することになっております。しかしながら、地元と市との連名での申請も可能ですので、必要ならばご相談ください。申請書を提出しても必ず設置できるとは限らないので、了承願います。また、横断歩道設置等についても同じです。(市民相談サービス課)</p>	
			四季折々の花を植える				
			子どもが遊べる公園を整備する				
			棒踊りの記録を残す				
			深港の横断歩道に信号機を設置するよう要望書を提出する				
			校区内にある店がさらに活用されるようPRする				
		各振興会	事故防止のため、危険個所の草払いをする			<p>※15 岳野地区公民館は条例地区公民館ではなく自治公民館のため、市が改修を行うことはできません。しかし、垂水市自治公民館建設に対する補助交付規則がありますので、要項に当てはまる改修であれば、この規則に則って補助金を交付いたします。(社会教育課)</p> <p>※16 事前予約型乗合タクシーが実証段階から本格運行に入り、これまでも順調に推移しており、このような取組を広げられないか検討したいと考えています。牛根地区においては、課題もあるが解決に向けて取り組みを進めていきます。(企画課)</p>	
			粗大ゴミの回収を検討する				
		地域 民生委員	放任ピワ園を借り受けてピワを生産する				
			民生委員が中心となり、高齢者の安否確認や子どもの見守りのために声をかける				
市	農林課	猪・猿・鳥対策に関する具体的な要望に対し、補助事業等の情報を提供する ※13					
	市民相談サービス課	信号設置について支援する ※14					
	社会教育課	岳野地区公民館の改修について支援を検討する ※15					
	企画課	公共交通機関が無い、交通が不便な地域の解消に努める ※16					

～牛根でしかできないこと、牛根だからできることをみんなで考えよう～

キーワード	「こうありたい」	だれが		いつ、何をする？			市役所関係課長等の見解
		・地域 ・団体名 ・市 ・県、国		前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
環境	<p>農作物の獣害を減らしたい 地区の環境を守りたい 社会基盤を整備したい 福祉を充実させたい</p>  <p>▲牛根地区の自然</p>	市	総務課	災害時の連絡体制強化、自主防災組織への支援について検討する ※17			<p>※17 自主防災組織のスキルアップについては、年1回研修会及び総会で組織の重要性をお願いしています。東日本大震災以降、各組織から研修及び相談を受け、危機管理監、危機管理対策室長が対応しているため、ご連絡をお願いします。(地域において災害事項が異なることから、統一した意識が取りにくいいため) (総務課)</p> <p>※18 歩道の改善とガードレールの設置については、国道であれば国道垂直維持出張所に要望したいと思います。(土木課)</p> <p>※19 どの程度の遊歩道を作るのか、利用目的、利用者数や整備後の維持管理等はどうか、大隅地域振興局の見解を含めて検討しなければなりません。(土木課)</p> <p>※20 魚道は水生生物の上下流方向への移動障害となるダム、取水堰、床止工等の河川横断施設に設置される魚の通り道の確保であり、必要性は認識しているが、現地を調査して検討します。(土木課)</p> <p>※21 外灯については、振興会が防犯灯として設置していただくことになります。その際市としては、新設時に9千円、修繕時に6千円の補助を行っておりますので、ご利用いただきたいと思います。なお、防犯灯設置後の電気料は、振興会負担となります。(市民相談サービス課)</p> <p>※22 平成24年度から県営中山間地域総合整備事業で、牛根地区は農道2線、集落道2線、集落排水1箇所、防犯灯3箇所、防火水槽5箇所の整備を行っていきたい。また、集落や農家等の活動による集落道や農道の整備については、事前の要望に応じて予算計上を行い、原材料(コンクリート・碎石等)を提供できるよう対応を検討します。(農林課)</p>
			土木課	現地を確認し、国道の歩道改善、ガードレール設置を国に要望する ※18			
				必要性を考慮し、松崎川の遊歩道整備を検討する ※19			
				必要性や砂防指定河川との関係も含めて魚道整備を検討する ※20			
			市民相談サービス課	防犯灯設置について支援を検討する ※21			
農林課	補助事業等を導入し、農道等の整備を検討する ※22						

5 計画を実行するために

- ・ P6～P15 の行動計画を実際に実行するために、準備が必要な項目を挙げて整理します。
- ・ 行動計画と同様に「だれが」「いつ」「何をする」を決めますが、より具体的な計画を立てます。
- ・ みんなで話し合いながら例のような表を作り、その情報を共有します。

実施計画（例）

行動計画項目	餅つき大会の実施 (地区公民館が中心になり、現在校区で行っているイベントを充実させる)
計画書ページ	P6～7

担当者 (だれが)	準備開始時期 (いつ)	行動内容 (何をする)	備考

6 振り返り（実践・見直し）

- ・継続性のある計画であるために、毎年みんなで進捗状況の確認や計画の見直しをします。
- ・一度に計画の全部はできませんが、確認シートでひとつひとつの項目がうまく進んでいるかどうか、うまく進んでいなければどうすれば良いか話します。
- ・行政には確認の結果を報告します。
- ・新たな課題が生まれてきたときは書き加え、計画書の見直しにつなげます。

確認シート様式（例）

振り返りの年度：平成●年度（●年目）

確認日：平成●年●月●日

「こうありたい」	取り組み状況 (凡例参照)	取組の状況や新たな課題 (自由に記載)
イベント等を通して交流の場を作りたい	○	イベントの企画運営に校区全体で取り組んだ。参加人口をどう増やすかについて検討が必要。
中学校跡地を有効活用したい	◎	境・松ヶ崎・市と今後の利用について協議し、地区住民が利用することができるようになった。
...		
		(新たに加わった行動計画も書く)

凡 例

- ◎：達成した・解決した・改善した
- ：一定の達成・一定の改善（達成途上）
- △：取り組んだがうまく進まず、翌年度に継続するようにした
- ×：取り組まなかった

第4次垂水市総合計画基本構想（P23）より全文

第4章「地域づくりの考え方」

第2節「地域振興計画」

地域拠点地区においては、それぞれに文化や歴史、社会資源があります。それらを反映した地域の特性をそこに住む住民が理解し、地域の将来をみんなで考えていく必要があります。また、それぞれの拠点地域にある特性の理解を深めることによって、拠点地域間の連携が生まれ、相乗効果による活性化が期待できます。

このため、地域拠点地区において、地域づくりの考え方や地域の将来像を盛り込んだ地域振興計画を定めて、地域の特性を生かしたまちづくりを地域住民の手で進めていきます。



垂水市ホームページより

総合計画とは？

まちづくりの将来像を示し、総合的かつ計画的な行政運営を図るための計画です。総合計画は一般的に三層構造となっており、約10年を計画期間としています。

総合計画の構成



基本構想 まちづくりや行政運営の方針

基本計画 基本構想を実現するための政策レベルの計画

実施計画 基本計画を実現するための事務事業レベルの計画

資料 2

(1) 策定経過

日付	名称	人数	内容
H24.4.19	牛根地区公民館総会	19名	・計画づくりに対し、組織的な了承を得る。
H24.5.17	第1回 「牛根づくり計画」 策定委員会	22名	・計画策定の取組スタート。 ・規程、アンケート実施について承認。
H24.6.14	第2回策定委員会	20名	・アンケート集計結果の分析。 ・牛根地区の目標の決定。
H24.7.9	第3回策定委員会	16名	・アンケート意見の絞り込み。 ・「こうありたい」の整理。
H24.7.25	第4回策定委員会 (先進地調査研修)	18名	・大馬越地区コミュニティ協議会(薩摩川内市)への調査研修。
H24.8.8	第5回策定委員会 (鹿児島大学公開講座)	24名	・調査研修の報告。 ・鹿児島大学小栗准教授による講演。
H24.8.23	第6回策定委員会	18名	・「こうありたい」に基づいて、計画書に記載したい行動計画を挙げる。
H24.9.5	第7回策定委員会	21名	・地区全体で取り組む行動計画の選定。
H24.9.20	第8回策定委員会	16名	・整理された行動計画の確認。 ・市へ要望する項目の確認。
H24.10.3	第9回策定委員会	35名	・市関係所属長等が同席。市への要望に対する回答、見解について説明を受ける。
H24.10.25	第10回策定委員会	17名	・計画書の仕上げ作業。 ・計画書原案の承認・決定。
H24.11.29	報告会 (鹿児島大学公開講座)		・計画書完成報告。 ・鹿児島大学小栗准教授の講演により、計画を実行するための助言等を受ける。

(2) アンケートの実施と結果

「牛根づくり計画」アンケート

「牛根づくり計画」って？

「よりよい牛根地区を、牛根地区に住むみんなで作っていきましょう！」
という計画です。

そこで、牛根地区に住むみなさんが思っている、牛根地区の長所や課題、「こうすれば牛根地区はもっと良くなる」等のご意見を教えてください。よろしくお願いいたします。

(1) 回答された方の年齢・性別を教えてください

年 齢	20代	30代	40代	50代
	60代	70代	80代以上	
性 別	男性		女性	

当てはまる項目に○印をつけてください。

(2) 牛根地区の生活に満足していますか？

満足している ⇒裏面の(4)へお進みください。

満足していない ⇒裏面の(3)へお進みください。

当てはまる項目に○印をつけてください。

(3) 満足していないことは何ですか？次から1つ選んでください。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 教育・文化 | 2 保健・福祉 |
| 3 産業振興（農業他） | 4 道路などの社会基盤整備 |
| 5 その他（ | ） |

当てはまる項目に○印をつけてください。

(4) 10年後の牛根がどうなっていて欲しいと思いますか？

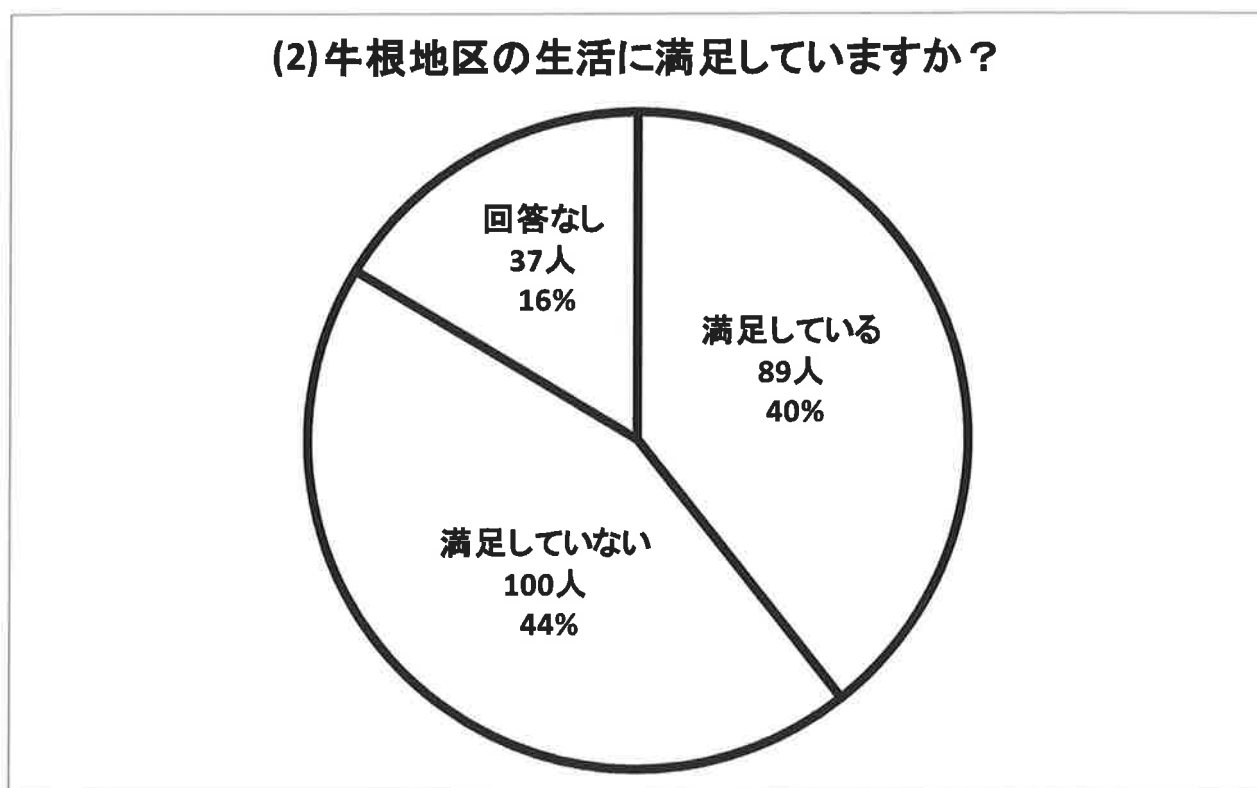
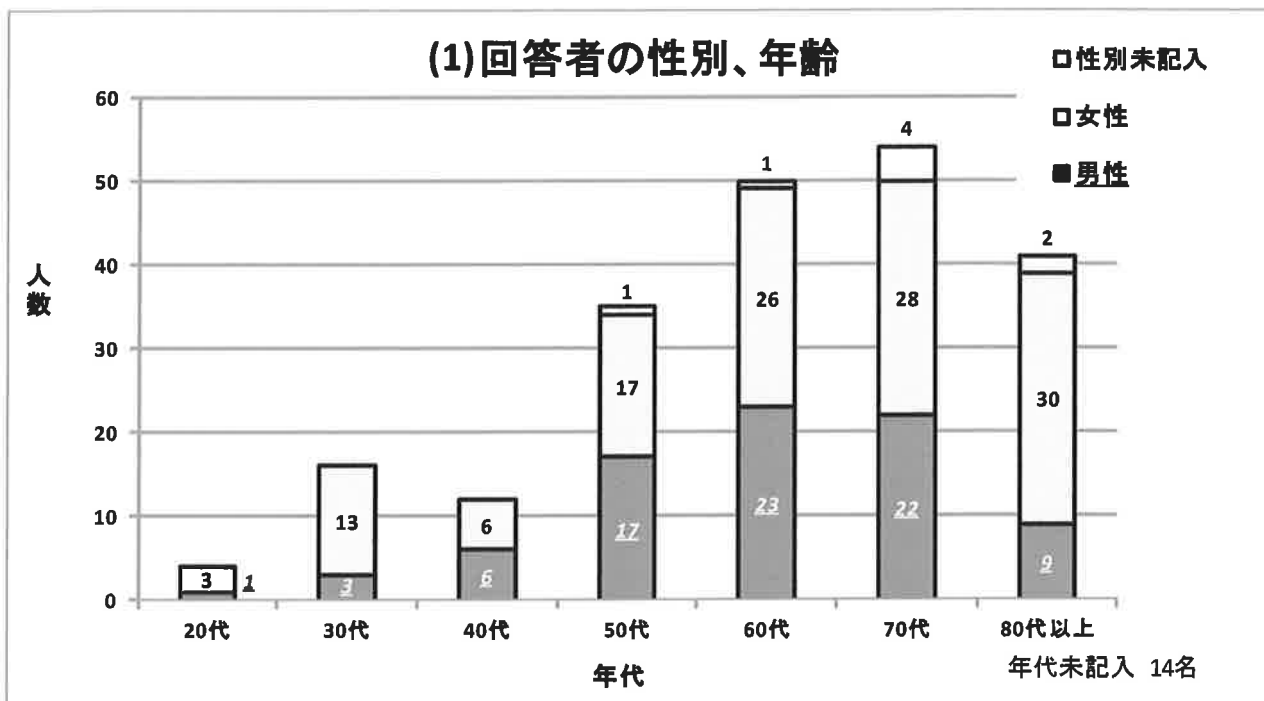
一言でお書きください（例：人口が増えていて欲しい）

(5) ご意見、アイデアなどご自由にお書き下さい。

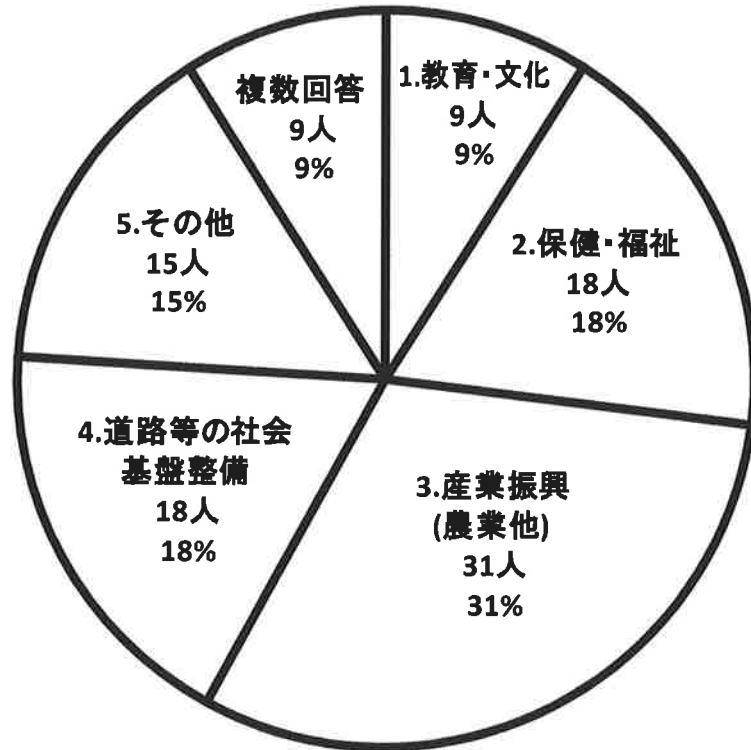
ご協力ありがとうございました。

牛根づくりアンケート集計結果

記入総依頼数	-----	319
回答数	-----	226
回答率	-----	70.85%



(3) 満足していないことは何ですか？



「満足していない」理由 その他意見

- ・買い物不便
車、ガソリン代がかかりすぎる
- ・水道の不備
- ・牛根に住みたいという人は多いが住める家がないので仕方なく国分・鹿屋にいてる人がいる。
- ・子供の遊び場所が少ない
- ・若者の仕事場がほしい
- ・過疎化・人口の減少 (高齢化)・空家の増加
- ・私にはよくわからない
- ・乗物、バスの回数が少なく乗りたいときにバスが走っていない事。こまかく調べたことがありますか。
- ・仕事先も大事ですが降灰対策のしてある住宅が欲しい
- ・いつまでも平和な部落であってほしい。お互いに助け合しましょう。
- ・店が無く交通の便が少ない
- ・24時間営業の店が一カ所でもあると便利
- ・台風などで孤立するのでコンビニや店を増やすべきだ
- ・牛根松崎の電電公社の所から旧鉄道線路までの道路は市道でしょう。バイク、自転車は大変
- ・バスがほしい
- ・降灰
- ・わからない
- ・公共事業の促進
- ・若年層の減少
- ・水害整備・放置空家対策
- ・降灰
- ・お店が少ない

(4) 将来の牛根地区はこうなっていて欲しい (人に関すること)

- ・若い家族が増えて赤ちゃん、子供達の泣き声、笑い声が聞きたい
- ・子供達の声があちこちで聞こえてくるような地区にしてほしい
- ・人口が増えて若者の多い地区になってほしい
- ・人口が増えて、活気がでてほしい
- ・若者が多く生き生きした町
- ・若者が多くなってほしい。人口が増えてほしい
- ・人口が増えてほしい
例えば会社などが出来て人口が増えてもらいたい
- ・人口が増えてほしい
- ・人口が増えて豊かになってほしい
- ・人口が増えて活気がある町になってほしい。
- ・若い人が増えていてほしい
- ・人口が増えていってほしい
- ・人口増加を望みます
- ・まず人口が増えない事にはどうにもならないと思います
- ・高齢化社会ですが子供が増えてほしいです
- ・若者の増加
- ・人口がもっと増えていてほしい
- ・若い人が住んでいてほしい。
- ・年寄りや若い人たちがいないので寂しいです
- ・人口が増えてほしい
- ・人口は増えるといいですね
- ・子供が増えてほしい。
- ・人口が増えてほしい
- ・子供達の遊ぶ姿が見たいです。
- ・中学校があって小学校があって小さい高校があってそれを横から年寄りや跳めていきたいです。
- ・若い人が住みやすい地区になってほしい
- ・若い子が増えてほしい(子ども)
- ・子育て世代が増えて子供の明るい声が聞こえる牛根であってほしい
- ・子供たちが健やかに育ち、高齢者が安心して暮らせるようになってほしい
- ・人口増と若人に仕事 生きる事
- ・子供が増えていてほしい
- ・若い人が増えてほしい
- ・若い世帯が増えて子どもたちの声が村中で聞こえて活気に溢れていてほしい
- ・若い世代の人たちが少しでも増えてほしい、残ってほしい
- ・子供たちのにぎやかな声が聞きたい
- ・人口が増えていてほしい

(4) 将来の牛根地区はこうなっていて欲しい (人に関すること)

- ・やはり人口減が止まり、若い人々が残るような牛根になってほしい。
- ・子供がいる家庭が増えてほしい。
- ・10年後は老人が多く若い人が少ないので若い人が子供さんを生んで下さい。
- ・今までどおり孫と一緒に生活していきたい。
- ・子供達が多いにぎやかな集落であってほしい
- ・若者がどんどん子供を増やして欲しい
- ・若い世代が増えて子供が増えてほしい
- ・人口が増えてほしい
- ・弱い人に対して思いやりがほしい
- ・若い人達が増えてほしい
- ・次世代の子供達が牛根を考えてもらいたい。
- ・人口が増えてほしい
- ・人間、老人、やさしく
- ・灰が少なくなって若い人が多くなってほしい
- ・人口増
- ・人口が増えて下さい
- ・いつまでも平和な部落であってほしい お互いに助け合いましょう
- ・若者が定住して人口が増えてほしい
- ・人口が増えていて欲しい。
- ・ひとり暮らしの人が、少なくなっていてほしい。
- ・各集落の発展を望む
- ・人口が増えて働く所がほしい
- ・地場に残る夫婦として子供のゆとりある環境
- ・県外から地元・垂水に帰られるように
- ・若い人が少しでもいてほしい
- ・人口が増えてほしい
- ・少子化及び地方からの居住対策により活気ある牛根に
- ・人口が少なくならなければいいですけど
- ・活気ある町、人口が増えてほしいと思う
- ・近所・集落等でやさしさがほしい
- ・小学校が存続してほしい。
- ・ただでさえ人が少ないので、今いるお年寄りや地域住民が元気でいてほしい

(4) 将来の牛根地区はこうなっていて欲しい (人に関すること)

- ・若い人達が増え牛根中学校を復活してほしい
- ・人口増
- ・活気があってほしい
- ・人口が増えてお店が増えてほしい
- ・人口の
- ・ベットタウンとして人口増
- ・人口が増えてほしい
- ・人口増
- ・今小学、中学生と子供が少なくなりました。部落の皆でS60年代の様、集落の行事、復活ができれば活気があるのでは。子供たちの喜ぶ姿が見たいですね。去年は六月燈が復活できてかき氷、やきとりなど子供が喜んでいました。
- ・人口が増えて活気のある町に

(4) 将来の牛根地区はこうなっていて欲しい (仕事に関すること)

- ・東京～大阪から呼んで大手会社が出来れば良い。
- ・企業の参入
- ・現在高齢者が多く10年後は人口の減少が予想されます。もっとおおきな企業でも出来て牛根の活性化がほしい
- ・人口が増えても仕事がない
- ・若い人の仕事がない
- ・若年者の就職先が少ない(垂水・国分地区)
- ・働く所が増え活気のある明るい牛根
- ・産業振興・農業地
- ・若者が希望を持ってない
- ・年々人口が少なくなるので産業を持ってほしい
- ・仕事場がほしい

(4) 将来の牛根地区はこうなっていて欲しい (施設、環境などに関すること)

- ・サロン(集いの部屋)、コーヒータイムが出来る場所が出来ていたら良いと思います。
- ・福祉施設がほしい。
- ・交通の便が良くなってほしい
- ・広場、つどいの場所みたいな所があったらいい
- ・子供老人他が共に集える公園や鉄道跡地を利用した桜並木の遊歩道
- ・ひなんする場所を作って下さい。高齢者の方ものぼれる所を。
- ・老人福祉が守られる
- ・もう少し交通の便利が良くなれば昔の様に気軽に年寄りが遠くに外出できればいいなあと思います。
- ・自分を含め高齢者にとって福祉の充実を期待したい。
- ・ひなん場所を作ってほしいです。どこににげたら良いのか
- ・観光名所になっていたらいいな
- ・店もあり、住みやすい所になってほしい
- ・小学校の合併
- ・交通が良くなる
- ・近くに大型スーパー等が出来てほしい
- ・太陽パネルがほしいと思います
- ・農作物を猿、猪、動物が荒らすので駆除して安心して枇杷や野菜など作れる環境になってほしい
- ・福祉設備の充実を図ってほしい
- ・水族館使用で海底観光地

(4) 将来の牛根地区はこうなっていて欲しい (その他)

- ・欲を言えば活気がある牛根…現状維持でも十分
- ・牛根に住んでよかったと思えるように
- ・牛根が今より良くなればいいと思います
- ・地域の元気の出る活性化をもっとはかろう
- ・これ以上悪くならないように
- ・活気ある牛根になってほしい
- ・明るく元気で安心して生活出来る町に
- ・おだやかな日々であってほしい。
- ・後継者も帰って来ず衰退 悪化の一途を辿るのは目に見えてる
- ・自慢できる故郷、住みやすい活気のある牛根
- ・文化・歴史
- ・地元の課題の退職を受け入れてほしい
- ・限界集落となり、猿、猪、カラス等の世界になる
- ・特にありません
- ・牛根小学校は…
- ・ナシ
- ・何でも言える楽しい今後であってほしい
- ・もっともっと活生化されていてほしい。
- ・?
- ・年寄りが安心して住める町にしてほしいです
- ・子供、孫たちが喜んで帰ってきて地域が楽しく過ごせる様な牛根になってほしい

意見集

- 1・年金で生活出来る世の中。
- 2・荒地が多く、または空き家も多く防犯の面でも何とかしてほしい。
- 3・働く場所がほしい。
- 4・農業をしている者ですが猿、猪が非常に多く作物を作っても収量が見込めない。個々で防護しても結果はよくない。そこで高崎山のように地区全体を防護柵で囲って猿割をなくすような方法を取ってほしい。
- 5・牛根青空屋の市実施・スタンプラリーの実施で粗品進呈
- 6・PRは先ず市の有線放送で、順調に進めば南日本新聞の(みなみのカレンダー)に後は市のホームページで。
- 7・公民館を利用して集落の動きが出来たら楽しいだろうと思います。年間の行事を公民館(集落)を利用してほしい。
- 8・鳥、猿、猪により枇杷、農作物の被害。楽しみにしていただけに情けない。戦意喪失…。降灰、立地条件諸々たまたまに故里に見切りをつけ転居していく淋しい限り。覇気はなく、うつろな眼差しです。一考を要する。
- 9・四季折々の花を植え美しい町に隔々の村に咲かせ道行く人をなごませる牛根にと希望しています。
- 10・枇杷農家の皆様泣いてます。役所の皆さん何かと多忙でしょうが、猿対策に力を入れて考案して下さい。
- 11・船は前後左右大援の連続で何時間見ても見あきない。今まで2隻岸壁にぶつかり破損、7隻は他港へ築港したもの。大金かけて修理した港利用したが様にならなかった。
- 12・離島の荷揚場であるまいし駐車場は広く名目は漁港じゃなく魚釣り施設です。
- 13・高齢者の住みやすい環境作りに努力してほしいです。
- 14・若者が生まれたところにとどまれるような市になる事だと思います。
- 15・農道整備が出来ていないため重労働に耐え兼ね放棄される農地が増えているのではないか。これでは若者の農業への参加はなく又、ほかの産業もないため人口増加は期待できない。
- 16・給食センターの活用 老、若、使用
- 17・牛、中、体育館・運動場の使用(老、若、スポーツ)
- 18・牛根麓の神社の整備

-
- 19・道路補修に専念してほしいです。
-
- 20・やぶ払いなどしてもらいたいです。老人運転のため。
-
- 21・同じ牛根地区でも岳野は交通の不安で毎日かなしい思いです。牛根二川まで百引までどうにか外出したいです。タクシーでは思うようには生活が不安でなりません。
-
- 22・今、歴史的にも牛根が見直され、マスコミ等で取り上げられて牛根に住む者にとって嬉しい事である。何十年も住んでいるにもかかわらず先人達の知らない事が多く改めて学ばされる。これからも多くの人が足を運んでくれるのを期待したい。
-
- 23・年に2回程度、粗大ゴミの収集をしてもらえれば有り難いです。
-
- 24・これからの高齢化社会、地域づくり等について地域の取組みは住みよい明るい地域づくり
-
- 25・若者の住める地域づくり・・・人口増・活気ある地域づくり
-
- 26・昔みたいに近所の行き来たりがない。人をけいかいしているみたいです。
-
- 27・松崎川の二川よりの方の堤防の土手を散歩道に作って貰いませんか・・・
-
- 28・中学校跡地を有効活用してほしい。
-
- 29・桜島がばくはつした時、じしんの時、どこに(ひなん)すれば良いか高齢者をかかえ頭の痛い所です。(つなみ)が来たらどうしますか。それなりの対応をしていただきたい。
-
- 30・豊にニコニコ暮らせたら良いですけど、自助努力、自己責任しかないのでしょうか。
-
- 31・川や海、山、全てが整備されていない。
-
- 32・牛根中学校を皆んなで自由に使えるようにしてほしい。
-
- 33・講話会などを取り込んでほしい。手軽料理講習とかストレッチ体操など皆んなで出来る手軽体操など楽しい集いがあつたらいいな～。
-
- 34・空屋を利用しておけいこ事とか出来る場所検討して下さいますように・・・
-
- 35・皆様が元気で過ごせたらますます牛根も活気づくのではないのでしょうか？
-
- 36・垂水で、何もかもあるので車を出して下さい。車なしではいかれなく、よろしく願います。
-
- 37・地元の若い人をやと入れてほしい
-

-
- 38・個人点をハンエイするように何か徳点をつけるよう・・・
-
- 39・男女共1人ものが大変多くいます。月に2回ぐらい見合でなく、出会いの出来る食事会でもキカクをおねがいます。
-
- 40・難しい面が多々あり、適切な意見・アイデアはありません。
-
- 41・子供がいる家庭でも家計に負担の少ない金額で住める家があれば住む人もふえると思います。空き家をいかしてほしい。
-
- 42・麓の川、観音様の川、二川の川、深港の川は年中水があります
えん堤が有って魚が上がれない様に成っています 魚道を造って川遊びが出来る様にしてほしい。
-
- 43・牛根地区は霧島市か鹿児島市へ合併すべきである
買い物等も多数の人が国分・隼人方面へ行く状態である。
-
- 44・どこの部落も空家が多いと思います。家は人が住まなくなると朽ちていきます。家主の理解を得て無償で貸付ける方法はありますか。人口増につながります。
-
- 45・地場の若年層とのつながりがなく市全体での集まりになり交流がもてなく地元密着型の交流の場がほしい。市全体での児童福祉ではなく地元での児童福祉。牛根住民だけの交流の場。
-
- 46・牛根地区の河川がまだまだ整備されていません。天災ではなく人災の原因もあります。河川の近くに住んでいる人の意見ももう少し市長、耳を傾けて下さい。安心して住むことの地域作りをして下さい。
-
- 47・浮津歩道は整備予定にないと思いますが、雨峠水溜(左右共)多く通行に不便がありますので舗装面をお願いします。
-
- 48・牛根地区発展のため大運動会の復活を。
-
- 49・もっと魚食普及を推進するため水産業者と共に餌やり体験や魚のさばき方の学習を多く広めてほしい。
-
- 50・イベント、お祭り等、人が集まる何かを企画して子供から年配の方までが楽しめる、笑顔になれる場がほしい。
-
- 51・アンケートの取り方がおかしいと思います。一世帯1枚のアンケート用紙では1人だけしか答えられないです。中学生以上の住民全員に取るべきではないでしょうか。
-
- 52・年間通してイベント等の計画(企画)を。
-
- 53・U・Iターンの促進と空家を貸家として若年層の定住促進。
-
- 54・市営又は県営住宅が増えてほしいです。
-
- 55・通学路にガードレールがあるといいと思います。
-
- 56・子供や若者が少なくなるので産業を持ってきて若者の働く場所があればよいかと思います。学校等空地に産業を持ってほしい。
-

-
- 57・若い人が住みやすく市営・県営住宅を増やす。
-
- 58・子どもが遊べる公園を作してほしい。
-
- 59・岳野地区は津波・土砂災害等起きない場所にあり福祉施設や老人ホームの建設場所に適しているのではないのでしょうか。(水・空気・星空がきれいな所です)
-
- 60・学校跡地を企業を持って来て若い人が働ける場を作してほしい。
-
- 61・若い人の住める「住宅」が不足しているように思います。例えば中学校跡地をアパート(さまざまな店舗つき・カフェやアトリエ、本屋、パン屋など)にしてはどうでしょう。
-
- 62・牛根地区のおもしろマップを作って、「道の駅たるみず」や「森伊蔵」など人の集まるところに置いてはどうでしょう。
-
- 63・牛根中学校の後に会社が出来れば良いと思います。
-
- 64・公園の整備、子供の遊び場を造ってほしい。
-
- 65・牛根にコインランドリー、コンビニ出来たらいいな。
-
- 66・若者が住む様な団地(安い)があったら子供も増えるのではないのでしょうか。市の団地も値段が高いような気がします。
-
- 67・子供達がどんどん減少しているので何か考えて欲しい。
-
- 68・交通のべんりが悪い。
-
- 69・年々人口が減少し、廃屋が目立つようです。高齢者ばかりで子供が少なく全くさびしい現象です。今振興策を考へないと、明るい未来は期待出来ないでしょう。
-
- 70・牛根中が閉校してから、牛根地区はどんどんさびれていくような気がします。牛根中跡地に若い人たちがはいれるような安い市営住宅を造ってほしいです。子供が増えないと活気はでてこないと思います。又、老人と子供が集える場所をつくってほしいです。
-
- 71・老人の一人暮らしが多い中、若い人達が親と一緒に生活して働ける場所があったらいいかなあ。
-
- 72・桜島は大事な観光資源ではありますが地元は正直に言えばこの降灰にウンザリです。住宅も克灰住宅や水道費などの補助とかコインランドリーなどの建設、補助。小児科などもあれば若い人ももっと住みやすいのでは。
-
- 73・枇杷を使ったスイーツ・県外からの民泊受け入れ。
-
- 74・やねだんに視察に行く・深港の横断歩道に信号を。
-
- 75・中学校跡地に企業が来てほしい。地区住民(若い)仕事場をあたえてほしい。
-

- 76・今現在、浮津港・二川港等に魚釣りをよく見かけます。このような光景を見て、錦江湾は魚の宝庫の様な気がします。そこで観光を目的とした海釣り公園等は出来ないものでしょうか？親子で釣りいいですね。
- 77・牛根中学校の施設について、垂水市全体で取り組みはされていると思いますが、どうでしょうか。子供から老人までできて、気軽に行ける健康施設等はできないものでしょうか。
- 78・地場産業の活性化。働く場所の提供。
- 79・災害の時、牛根地区に基盤整備事業等
- 80・少子高齢化の改善。定住社会基盤整備
- 81・地域医療の充実
- 82・各小学校は20人前後の少人数で体育の授業にも限界があります。各地域の意見もあると思いますが今現在学んでいる子供たちの立場になってもう一度検討してほしい。
- 83・「牛根に住みたいけど、借家がない」とよく聞きます。市営住宅も2ヶ所しかないのもう少しあったら良いと思います。
- 84・牛根中学校跡地が何か会社になって若い人の働き場が出来たら…人も増え賑やかになるのではないのでしょうか。
- 85・牛根にもシルバーの事務所があればよいと思います。
- 86・若い人が住める町、若者が働く場所がないため、仕事を垂水にもって来たら。皆仕事を求めて他県へ出てしまうと思う。働く場所があれば人口も増えると思う。
- 87・災害があると必ず孤立するので、垂水の町のように何箇所か店かコンビニを作ってほしい。孤立して辛い思いをしたし、小さな子供がいる所はもっと大変だった。孤立するような所に若い人や子供が増えるはずがない。
- 88・牛根に公園があるが動物のフンなどがあってきたないので市の人に定期的に掃除してもらい子供が楽しく安心して遊べる所にしてほしい。
- 89・牛根はどうしても中央との距離があるので若者にとっては、子供の教育面に於いても住みにくいのが現状であり過疎化は防げないのではないかと。序々に限界集落へと向かっている気がする。それに長い地域性もあって牛根全体でまとまるのは困難といえる。若者が地域外で生活しなくても牛根を離れないで生活出来るような環境を見出せる何かがあれば良い。
- 90・牛根地区は特に地元愛が強いのか。市外、よその県から入ってくる人達には冷たい部分がある振興会もあると思います。私も市外から入ってきた人間ですがいろんな意味でまだ理解できない事が多々あります。なかにはとても良くして下さる方々もいらっしゃいますがモラルのない方々もいるのも確かです。
- 91・中学校の跡地を利用して、若者が帰って来て地場産業振興策はないものでしょうか。
※桜島を目の前に釣り堀公園など観光と併設で郷土料理で観光客を呼び込めないものか？みんなで知恵を出し合ってみてはいかがでしょうか？
- 92・近頃道の駅の車の多いのにも少し工夫を重ねて宿泊の出来る道の駅、埋没鳥居の観光公園とか牛根は島津の発祥の地であるとも聞きました。文化、歴史をPRして県内外の人集めを考へて見ては如何でしょうか。年よりののはかない夢に終わらない事を祈る。

- 93・二川部落には、小学校、支所、消防もあり、又近くには病院もあり、産業としては澱粉工場もあり活気を感じ、大変有難いと思います。住民もみな平和な暮らしをしておられますのでこれからもこのような生活のできる部落であってほしいです。マーケットもあり買い物もしやすいです。小学校の子どもさんをよく見守って上げられるのが、私達二川部落民にとって大事なことと思われます。子どもを増やす為に是非結婚されることを望みます。惜しいのは牛根中学校が閉校になって淋しいですが、上之原部落といっしょに協力して校庭の除草など奉仕できたらと願ひ何とかよい利用方法はないものでしょうか？ありし日の牛根中学校の思い出よいつまでも
- 94・高齢者がこの先も増えていくと思われるので牛根にも特別養護老人ホームなどがあればいいと思います。
- 95・24時間のコンビニ、薬局やタイヨーなどの買い物ができるようなものがあれば人口も少しは減らないと思います。
- 96・民生委員の巡回が少ない(他の関係者)
- 97・外灯を増やしてほしい
- 98・お年寄りの憩いの場が全くない
- 99・牛根中学校跡地を福祉施設等にできないのでしょうか。

(3) 視察報告

牛根づくり計画策定に関する 先進地視察調査報告

研修日：平成24年7月25日（水）

研修地：大馬越地区コミュニティ協議会（薩摩川内市入来町）

参加者：牛根づくり計画策定委員会委員及び牛根地区住民17名、

企画課職員2名 計19名

研修内容

大馬越地区コミュニティ協議会の水流^{つる}会長から、大馬越地区の紹介や取り組み、協議会の体制等について説明がありました。

○大馬越地区について

大馬越地区の概要

人口：732名
世帯数：336世帯
主な産業：農林業
地区の問題：「過疎」
地区の理念：「自分たちのことは
自分たちの手で」

～何もないけど何でも出来る～



大馬越地区コミュニティ協議会
水流会長

○大馬越地区コミュニティ協議会の取り組み

・特産品づくり

休耕田を利用してシソを栽培し、コミュニティセンターの加工室を利用して、田起こしからラベル張りまで 100%大馬越産のシソジュース「しそっぷ物語」の製造、販売を実施しています。

しそっぷ物語誕生のきっかけ
「昔はシソジュースを作っていた」



「またやってみよう」



しそっぷ物語は、薩摩川内市ふるさと特産品コンクール特産品会長賞をはじめ、多数の賞を受賞しています。

この他にも、県立農業大学校から指導を受けながら、おかべ、味噌などの特産品を開発しています。

・ふるさと宅急便

大馬越産の特産品を市外、県外に送る取り組みをしています。

しそっぷ物語を始めとして、大豆、きんかん、餅、ゆべし等、「懐かしい」と思ってもらえるものを送っています。

・イベント

「馬越ん子の集い」



『子ども達』が、高齢者や障害者の生活を疑似体験。

『中学生』が企画運営し、スポーツやスイカ割り等も行われます。

「The といあげ祭り」



準備から企画、当日の運営まで『若者たち』の手で作られるお祭り。

餅つき大会やオヤジバンド、花火の打ち上げもあります。

「書初め会」



『高齢者』が先生になって子どもたちの書初め会を開催。ほぼ全員の大馬越小児童が参加します。

「大馬越地区文化祭」



小学校の学習発表会と合同で開催される、子どもから高齢者まで『地区民総出』で開催される文化祭。

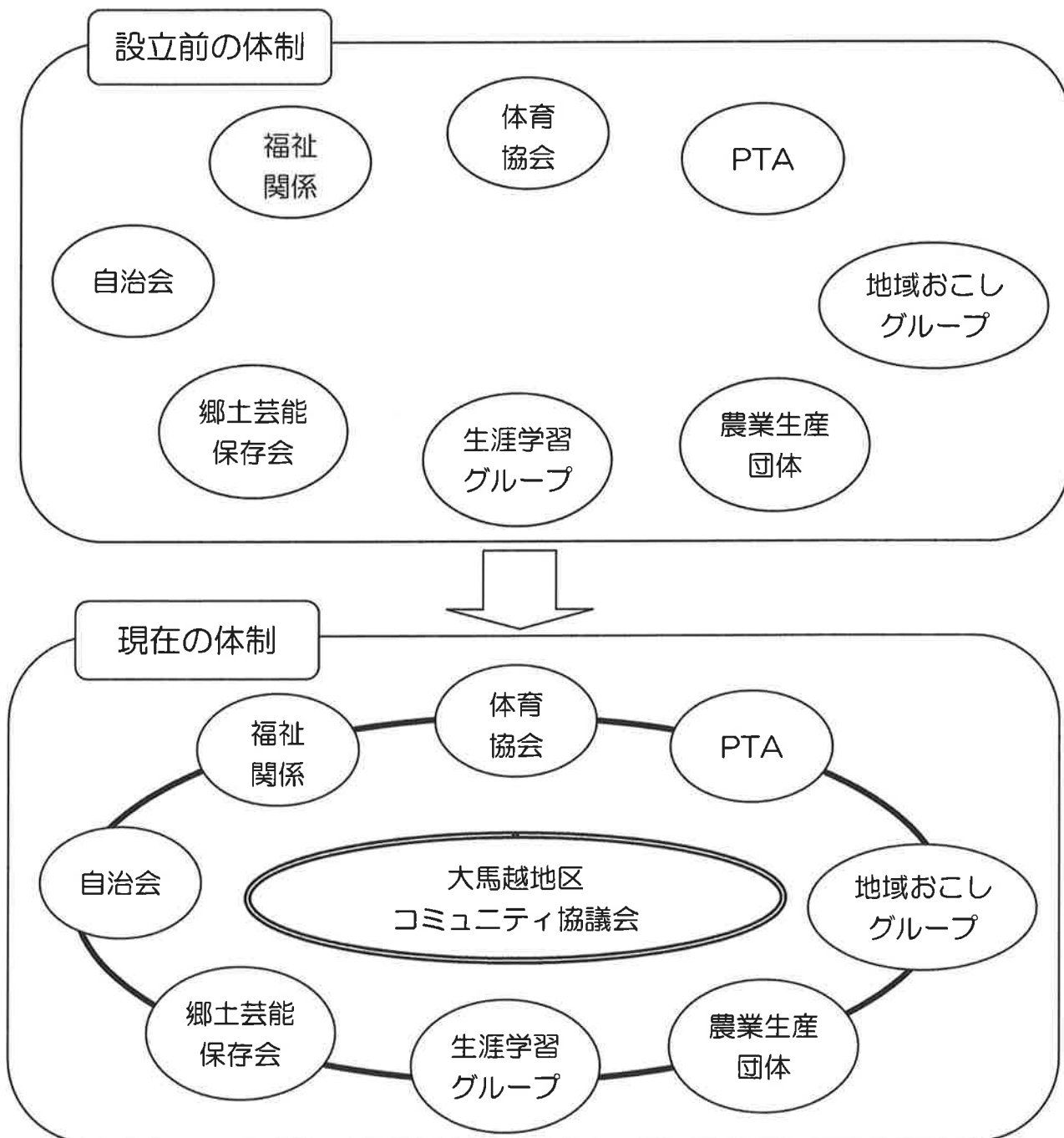
他にも様々な取り組みをされていますが、子どもから高齢者まで、それぞれの特技を活かし、皆が役割を持って活動されています。それぞれが得意なことを役割とすることで、楽しく活動し、世代間の交流を持つことができます。



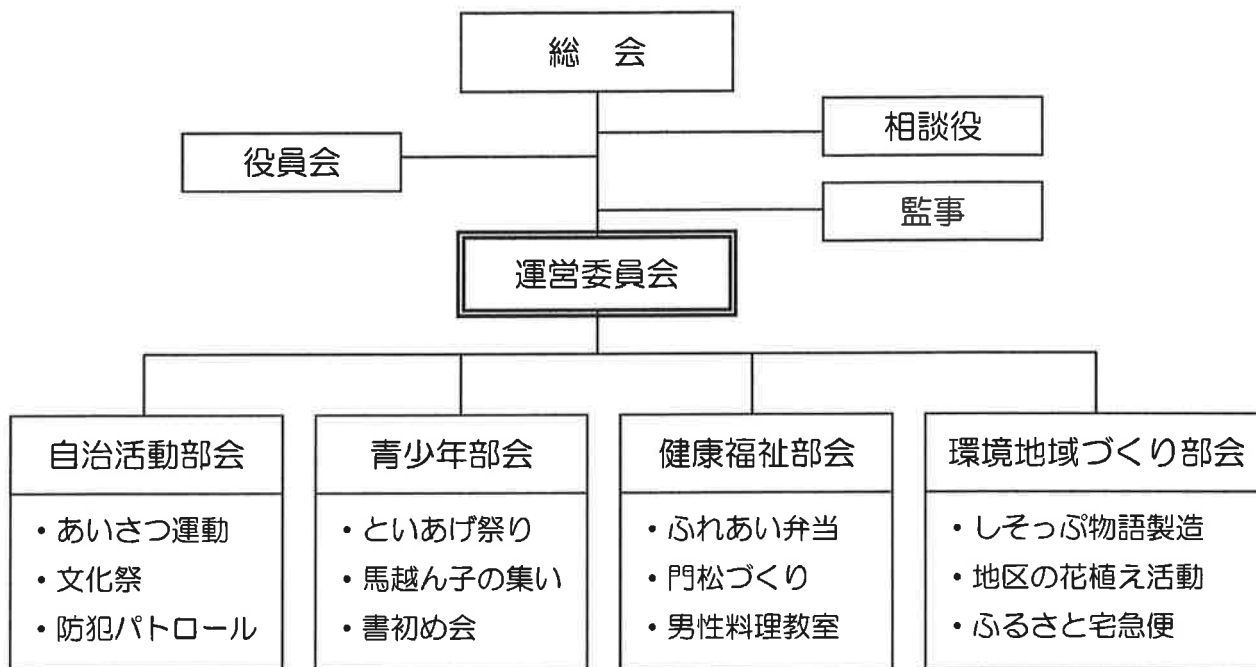
○地区コミュニティ協議会について

平成の大合併で薩摩川内市が誕生し、同時に各小学校区を単位とした48箇所コミュニティ協議会が設立されました。

大馬越は、コミュニティ協議会が設立されたことで、それまで各自で活動を行っていた地区内の団体が4つの部会に編成され、一体となって活動する組織へと変わりました。



大馬越地区コミュニティ協議会組織図（概略）



○地区振興計画

大馬越地区コミュニティ協議会では、「地区振興計画」を策定し、これに基づいて様々な活動を行っています。

この計画は、地区が将来どうあるべきかを、地区を最もよく知る住民自らが話し合って策定した計画であり、現在策定作業中の「牛根づくり計画」と同じ理念で作られた計画です。

○質疑応答

水流館長からの説明を受けた後、質疑応答が行われました。

【しそっぷ物語の販売は利益が出ているのですか？】

→地区民のみで製造していて賃金を安くしているので、去年は20万円程の利益がありました。利益が出る楽しみがあれば参加者も集まりやすくなります。

【豆腐に使う大豆は、海の近くでも作ることができますか？】

→排水をしっかり行えば可能です。7月頃に種をまき、11月に収穫できます。

【魚道が整備されていますが、地区から要望したのですか？】

→魚道は、通常無くても生活ができるものなので、実現のために地区から強く要望する必要がありました。

【どのようにして多くの方に地区活動へ参加してもらったのですか？】

→以前から生涯学習等の活動を行っていたので人集めには困りませんでした。

現役世代の人は、仕事の都合でなかなか参加がありませんが、高齢者の方々が「ふるさと先生」として中心になって活動しています。そして、高齢者の方々に参加してもらうには、子どもが活動に参加することが重要です。

(大馬越地区役員からの質問)

【今日はどのような目的を持って研修に来られたのですか？】

→現在、地域振興計画を策定していますが、このままでは牛根が衰退し、「牛根」自体が無くなるという危機感があるためです。

参加者の意見・感想

今回の研修についての意見や感想、牛根の課題等を参加者に発表して頂きました。

○校区の運動会の関係者にも策定委員会に参加してもらい、合同運動会をしてみたらいいのでは。

○継続した取り組みが必要だと思った。継続するためには、人をどうやって集めるかにかかっている気がする。研修に参加した委員以外の方も、今後の会議に参加してもらえたらと思う。

○人を集めるのが一番苦労すると思う。

○特産品であるビワが、高齢化で手入れできないところがある。放任ビワ園を借り受け、学校跡地を利用する等して、生産から加工、販売をしてみてもどうか。

○今後さらに高齢化が進み、介護をする人が少なくなる。そうなれば自分のことは自分でしないとイケないが、認知症対策のためにも人と関わる場が必要。

○行事の連絡等が伝わっていない。「知っていたら行ったのに」を無くすため、連絡網の整備からはじめてみたらどうか。

○特産品を作ることでもできるのでは。利益を追求せず、お茶受け代くらい残ればいいと思う。

○高齢化が進んで、皆運転もできなくなってくる。牛根にもデマンドバス等が必要になってくると思う。

○若い人たちに来てもらいたいと思う。そばや大豆も作れるが、年をとると作業がきついで、若い人にそば作りなどをしてもらえたら。

○公民館事業では、お金を取る活動をしたことがなかったが、イベント時に屋台を出す等の活動は楽しんでやれるのではないか。

○地域の人全員に行事等の連絡が行きわたっていないので、連絡体制の整備も考えていったらいいと思う。

○牛根にあるものと言われてもビワしか思いつかない。今から何か作ろうと考えても高齢者は重労働ができないので、若い人に協力をもらって皆で取り組んでいけたらと思う。

○人集めのためには組織づくりが必要だと思う。現在は情報が行きとどいていないが、全員に情報が行きわたる組織を作り、若い人にも参加してもらえるようにしていきたい。

○ふるさと宅急便の取り組みを牛根でもやればいいのかではと思った。休耕地を利用して、いも、そば、大豆等を作りたい。農業大学校の活用も必要だと思う。

(1) 牛根づくり計画策定委員会規程

(設置)

第1条 第4次垂水市総合計画基本構想に基づき、牛根地区における地域振興計画を策定するため、牛根づくり計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、牛根づくり計画策定のための企画、調整及び素案・原案策定に関することについて処理する。

(組織)

第3条 委員会は委員長、副委員長並びに議長、副議長及び委員をもって組織する。

- 2 委員長は地区公民館長を、副委員長は公民館主事をもって充てる。
- 3 議長及び副議長は、振興連の中から選出する。
- 4 委員は、牛根地区公民館の運営委員、牛根地区地域担当職員リーダー及びその他委員長が特に選任する者をもって充てる。
- 5 委員は、牛根地区公民館長が委嘱するものとする。

(委員長等の職務)

- 第4条 委員長は、委員会を代表し調整役として委員会を総理する。
- 2 副委員長は、委員長に事故あるとき又は欠けたときに、その職務を代理する。
 - 3 議長は、会議の議長として会議を掌理する。
 - 4 副議長は、議長に事故あるとき又は欠けたときに、その職務を代理する。

(委員会の招集等)

- 第5条 委員会は、委員長が必要に応じ招集する。
- 2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、牛根地区公民館に置く。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規程は、平成24年5月17日から施行する。

(2) 策定委員名簿

牛根地区公民館役職等	氏名
館長、市議、二川自治館長、監事	森 正勝
主事	西川 久美子
顧問	中山 光宣
小学校校長	伊地知 学
小学校教頭	大庭 新吾
牛根駐在所	上園 芳彦
消防団長	橋口 雄治
中浜振興会長	今村 富義
上ノ原振興会長、体協長、校区老人会長	新屋 秀信
岳野振興会長、監事	今村 一光
深港振興会長	立和田 廣人
浮津振興会長	森 徳義
体協副会長	長濱 恵理子
民生委員	今村 義弘
民生委員	中濱 文子
民生委員	岩山 一美
民生委員代理	大迫 真一
牛根小PTA会長	山下 厚実
育成会長	中濱 伸次
体育指導員	浜畑 政浩
牛根郵便局長	福重 一誠
出荷者組合	梶ヶ山 一也
二川ひよっとこ踊り代表	神崎 ルミ子
二川いきいき会	藤原 正子
中浜振興会	今村 卓久
岳野振興会	中浜 計佐吉
二川振興会	宮嶋 シツ子
深港振興会	津曲 義治
深港振興会	津曲 弘子
浮津振興会	岩山 煎子
浮津振興会	川畑 京子
浮津振興会	脇田 當子
市役所OB	森 和治
市役所地域担当職員	川畑 千歳
市役所地域担当職員	港 耕作
市役所地域担当職員	岩下 つぐみ

牛根中学校閉校記念事業
(平成 21 年 10 月 市報たるみず)


■閉校記念事業概要

- 1 閉校記念式典 平成 22 年 3 月 21 日(日)
※同日開催 ①お別れ会
②記念碑除幕式
- 2 閉校記念文化祭 平成 21 年 11 月 15 日(日)
- 3 閉校記念碑 記念碑の設置
- 4 閉校記念誌 1 部 2,000 円(販売価格)
10,000 円以上の募金者へは贈呈。
- 5 閉校記念品
閉校記念手ぬぐい 募金者と校区全戸へ贈呈。
閉校記念バナー 1 枚 1,300 円(販売)
※校車、校舎、校歌入りのバナー。

■募金受付(郵便振替)

- 1 口座番号 01790 - 7 - 68952
- 2 口座名称 垂水市立牛根中学校
閉校記念事業実行委員会

**■垂水市立牛根中学校閉校記念事業
実行委員会事務局(牛根中学校) ☎ 0994-36-2075**




牛根中学校
閉校記念事業

閉校記念式典
📅 平成 22 年 3 月 21 日(日)

心の故郷 牛根中学校

牛根中学校は、昭和 22 年 5 月に牛根村立牛根中学校として、当時の青年学校の跡に開校し、今年で創立 63 年を迎え、これまで約 5,800 名の生徒が卒業してきます。しかし、学校の規模適正化を図ることを目的に今年度で閉校し、垂水中央中学校へ統合されることになりました。牛根中学校では、閉校にあたり、母校への感謝の意を新たに、その歴史を記念するために、卒業生と校区民が中心となって「閉校記念事業実行委員会」を設立して、閉校記念事業を企画し、現在準備を行っています。

牛根中学校閉校記念式典開催
(平成 22 年 4 月 市報たるみず)

垂水市内 4 中学校閉校式・閉校記念式典開催

市内 4 中学校の統合に伴い、3 月 13 日(土)から 21 日(日)の各土日で、4 中学校の閉校関連行事が開催されました。

各学校の閉校関連行事は、午前の閉校式と記念碑除幕式、午後からの閉校記念式典(お別れ会)の 3 部で構成されて行われました。閉校式では、冒頭、垂水市教育委員会の中川原教育委員長が「地域社会を取り巻く情勢の急激な変化により過疎化、少子高齢化の影響は避けられず、教育理念・教育的配慮から議論がなされ、検討を尽くした結果、中学校の閉校が正式に決定し、学校の歴史に幕を閉じることになりました」と閉校宣言告辞を行い、式典がスタートしました。

📅 3 月 21 日(日) 牛根中学校閉校式



中川原教育委員長



生徒代表あいさつ(2年・神崎優理美)



閉校記念碑

牛根小学校 ソバの実収穫
 (平成 23 年 1 月 9 日 南日本新聞)

住民と一緒「ソバの実を漬」と児童



ソバの実収穫 垂水市・牛根小 <新聞>

食の大切さ実感

垂水市の牛根小学校で12月、ソバの実の収穫を行った。地域の方から借りている学校近くの畑で、サツマイモやソバを栽培している。

猛暑で生育状況が不安だったが、種まき後の天候に恵まれ、昨年以上の収穫をすることができた。地域の方々に作業の手順を教わりながら、教師がそばを使い、児童はハサミを使って刈った。刈った後は、シートの上で筒状に切った竹でソバの実をたたき落すと作業を行った。

ソバは、実を乾燥させ、製粉作業を経てそば粉にしてから山來上がる。児童は、そばができる過程を学び、食の大切さを実感したようだった。3月には、地域の方々とそば打ちを行い、できたてを味わう予定だ。

(教頭・有村修一)

霧島錦江湾国立公園地図 (一部)
 (環境省ホームページ)



岳野交通安全ニュースポーツ大会
 (平成 24 年 10 月 広報たるみず)

第10回岳野交通安全ニュースポーツ大会が開催!

8月4日(土)岳野グラウンドゴルフ場で、毎年恒例となっている岳野交通安全ニュースポーツ大会が開催されました。今年で10回目の開催となった本大会には、60名を超える方が参加され、参加者は交通事故防止に関すること等の説明を受けた後、グラウンドゴルフを行いました。岳野地区のグラウンドゴルフ場は、通常のコースの他に林の中をラウンドするコースがあり、参加者は難しいコースに四苦八苦しながらも楽しんでプレーしていました。競技終了後は公民館で結果発表と昼食会が行われ、おにぎりと焼き鳥を食べながら参加者同士交流を深めました。



錦江湾奥会議記事

(平成 24 年 2 月 8 日 毎日新聞)

観光、防災で意見交換

【鹿児島県】鹿児島市の霧島久保公園が、観光と防災の両面から、市内の統一化や、観光の発展に貢献したことで、霧島市や地産市が活用できるか図上研議することなどが提案された。

一方、校舎の傾斜対策を巡っては、市と関係もあり、観光での連携も含め、観光の発展も認められることと決めた。

【村野 昌】



4市庁が集まった錦江湾奥会議



▲策定委員会の様子



▲市役所関係課長との話し合い



▲先進地調査研修

あ と が き

第4次垂水市総合計画（まちづくりの将来像を示し、総合的かつ計画的な行政運営を図るための計画）を背景に地域づくりの考え方や地域の将来像を盛り込んだ地域振興計画を定めて、地域の特性を生かしたまちづくりを地域住民の手で進めていく「牛根づくり計画」の策定について、4月19日の牛根地区公民館の総会で了承をいただき5月17日に第1回「牛根づくり策定委員会」を開催しました。

これまで計10回の策定委員会において、これからの牛根地区について協議して参りました。牛根校区全戸にアンケートを実施して色々な御意見を収集し、先進地調査研修として薩摩川内の大馬越地区に行き、どのような活動をしておられるか、視察してコミュニティ協議会として組織がしっかりしていることを学んできました。また鹿大の小栗准教授による講演を聞き、牛根にリトル・東京、リトル・鹿児島はならない。計画づくりの主役は「わたし」であり、計画づくりは「小さいこと」からはじめ、大きく育てようということを学びました。

キャッチフレーズとして「牛根でしかできないこと、牛根だからできることをみんなで考えよう」を掲げ、これから10年間で9つの「こうありたい」を実現し、よりよい牛根地区をつくっていくために「だれが」「いつ」「何を」かを決め行動計画をつくり、承認をいただきました。

今後「牛根づくり計画」を実行するにあたり、どうしても地区民の皆様の御協力が必要です。是非地区公民館に御連絡いただき、色々な活動に参加していただければ幸いです。よろしくお願いたします。

むすびに、この策定委員会に御協力いただいた垂水市企画課の皆様と牛根校区出身の市職員の皆さん、そして各策定委員の皆様にご心から御礼を申し上げます。

牛根地区公民館長

牛根づくり計画策定委員会委員長 森 正勝

**牛根でしかできないこと、
牛根だからできることを
みんなで考えよう
～ 牛根づくり計画 ～ (初版)**

発行年月 平成24年10月
編集・発行 牛根地区公民館
「牛根づくり計画」策定委員会
〒899-4633
鹿児島県垂水市二川553番地1
☎0994-36-3494
協働制作 垂水市役所関係各課
牛根地区地域担当職員
企画課地域政策係
印刷 有限会社 垂水中央印刷

